

元の理～この世の摂理～

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。この世のあらゆる全ては、陽気遊山の為に用意されていて、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐにつわり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

*「理」=事実、要因 どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱり支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える土台の働き。
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

過剰(くもよみ不足):
不要なや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。
お節介や勇み足、悪い方への誘引引き出し3割の加減

不足(くもよみ過剰):
短所など表面的な所が目について、隠れた長所や本質に気付けず引き出せない状態。他人に対してなら見下す心(=優越感),自分に対してなら過度にへりくだる心(=劣等感)

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。勇み心を八方へ。

過剰(たいしょく天 不足):
受け取る側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。两者の声や思いが通らない。受け取る側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥(声)をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足(たいしょく天 過剰):
受け取る側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。

物事の起点となって先を楽しみ、低い方へと向かう陰の心。ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。求めず、冷静で、広大な海の心。落ち着いて、見えない陰で近くす楽しみ。物事の根っここの部分。「目は心の窓」眼は心根の現れ。

ぐにとこたち不足時(をもたり/母 強い時):
熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火

砂漠化、高血圧、不安症、ストレス過多、過緊張、不眠症

眼の身上 etc. 月 天 父 陰での働き 左親指 お蔭様の理。 心定めが全ての起点。本心。

左の役割 起点となって陰で働き、先を楽しんで低い方へ落ちしていく水の心

陽3: 陰7 月 男 陰での働き

陰で周りを引き立て支え、大事な所で勢いよくつぱり支える心

陽3: 陰7 ⑥月よみ 体内: 骨、男の道具

世界: つぱり支える働き立てる働き、柱、立木、月

月の引力、潮の満ち引き 月経を促す

体内: 眼、潤い、心根、感覺神経 睡眠、副交感神経、体の70%水分

世界: 水、雨、海、根、夜 地下水、地球の70%水分

宇宙の70%暗黒エネルギー

体内: 眼、潤い、心根、感覺神経 睡眠、副交感神経、体の70%水分

世界: 水、雨、海、根、夜 地下水、地球の70%水分

宇宙の70%暗